

2024
7.15

NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

校章は、創立直後の昭和17年、公募によって制定され、平成4年、創立50周年に伴い、商標登録されました。新しいNEWS CITはスクールカラーの「紫紺」をベースに、さわやかなスカイブルーカラーでお届けします。

[NO.686]



左からスティーブン・ビクトル農業・漁業・環境大臣/スランゲル・ウィップス・ジュニア大統領閣下/瀬戸熊理事長/伊藤学長

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

パラオ共和国 農業・漁業・環境省と 包括的連携協定を締結

2024年7月18日(木)、千葉工業大学とパラオ共和国農業・漁業・環境省は、包括的な協力関係を築き、学問の振興と学術的な協力を促進することを目的とし、「包括的連携協定」を締結しました。調印式は1号館20階で行われ、本学の瀬戸熊修理長とパラオ共和国のスティーブン・ビクトル農業・漁業・環境大臣が協定書に署名しました。また、式典にはパラオ共和国のスランゲル・ウィップス・ジュニア大統領閣下、本学の伊藤穰一学長も同席し、両国の関係強化を祝しました。

今回の包括的連携協定により、学生の受入れ、教員・研究員・職員の交流、学術情報の交換などを通じて相互交流を進め、学術的な連携を深めることが期待されています。

調印式で瀬戸熊理事長は、本学訪問に対する感謝と歓迎の意を表し、今後、パラオ共和国との間で学生や教職員の交流が盛んとなり、同国の社会に貢献する人材を共に育てることへの強い願いを述べました。

パラオ共和国は、太平洋の中心に位置する島国で、美しい自然環境と豊かな海洋資源を有しています。同国は、持続可能な開発と環境保護を重視しており、農業・漁業・環境省はその中心的な役割を担っています。今回の協定締結により、さらなる学術交流と発展が期待されると共に、本学は今後も国際的な連携を推進し、グローバルな視点から教育・研究活動を展開していきます。

P2 [トピックス]PPA総会で瀬戸熊理事長が大学の今後の展望を語る/千葉工業大学決算(令和5年度)を承認/チベット文部省大臣が講演、本学とのつながりに感謝

P3 [イベント・研究成果・インフォメーション]AIとロボティクスの発展に寄与、fuRo古田所長がGMOとコラボレーション/近藤小雪助教の研究チーム、クマムシの耐性機構解明に向けて大きな前進/令和7(2025)年度 千葉工業大学入学試験日程

P4 [イベント]デザイン科学科「橋本研究室」と「千葉市立有吉小学校」との協働プロジェクト、不要になったものを「子どもたちの居場所づくり」に活用

P5 [インフォメーション]活躍する校友「佐鳥電機・津久井俊一さん」/出版案内

P6 [受賞]大橋さんが学生奨励賞を受賞/DICOMO2024で優秀プレゼンテーション賞/日本生化学会関東支部例会で優秀発表賞を受賞/赤城さんが優秀演題賞を受賞/MathWorks Minidrone Competition-ICRA 2024で航空工学研究会が2nd Placeを受賞

P7 [イベント]学生寮で防災訓練、運動会を開催/柔道部が12年ぶりの優勝、全日本理工科学生柔道優勝大会

P8 [インフォメーション]就職・進路支援だより/コラム

PPA総会で瀬戸熊理事長が大学の今後の展望を語る



- 「超小型衛星」最先端技術分野での高い評価
- 「宇宙・半導体工学科」設立と未来への挑戦
- 国際連携の強化と未来の展望

令和6年度PPA総会が、6月29日(土)、新習志野キャンパス体育館にて行われました。委任状3,727名、当日出席者627名、合わせて4,354名の保護者と教職員が出席し、令和5年度事業報告、決算報告、令和6年度の役員、事業計画、予算案の議案がすべて承認されました。また、新役員が紹介され、新会長には、橋本淳氏(経営情報3年)、副会長に今井譲治氏(情報ネットワーク2年)、監事に東壮一郎教授(経営デザイン)、上平琴氏(都市環境2年)が選任されました。

総会において瀬戸熊理事長は、本学が最先端技術分野の研究や学生支援、就職指導で高い評価を受けていることや、2024年度一般入試志願者数全国2位という実績、高度技術者育成プログラムによる超小型衛星「KASHIWA」の打ち上げ成功など、現在の取り組みについて報告しました。

また、少子化が進む中、本学が時代の要請に応じた柔軟な対応を続けていく方針として、新たに「宇宙・半導体工学科」の新設を予定しており、日本政府の国策として力を入れている宇宙・半導体分野の技術者や研究者を養成する計画であると話しました。さらに、アリゾナ州立大学との包括協定を締結するなど、国際的な連携を強化することも言及。保護者の方々へ理解と協力を求め、本学のさらなる発展を目指す方針を強調しました。

総会後は学科別懇談会、個別面談を実施し、保護者らはご子の就学状況などについて熱心に相談している様子が伺えました。

千葉工業大学決算(令和5年度)を承認

5月30日、東京ガーデンパレスで開かれた本学理事会・評議員会で、令和5年度決算が承認されました。5年度事業報告については、本学webサイトに全文を公開しています。

事業報告書について



チベット文部省大臣が講演 本学とのつながりに感謝



中央チベット政権(CTA)のタラム・ドルマ・チャングラ文部省大臣が来日し、7月10日(水)に津田沼キャンパス2号館3階大教室で『チベット式教育方法:SEEラーニング~社会的・情動的・倫理的な知性の学び~』と題して講演を行いました。会場には学生・教職員約250人が集まり、熱心に耳を傾けました。

CTAはグライ・ラマ法王のチベット亡命政権の正式名称で、2023年7月にはノルジン・ドルマ情報・国際関係省大臣も本学で講演しています。

今回の講演は英語によるスピーチで同時通訳を介して行われ、「千葉工業大学はチベットから留学生を受け入れ、勉強の機会を与えてくれている。特別なつながりがチベットの人々との間にあることに感謝している」と締めくくりました。講演後には、本学に留学中の学生らと和やかな懇談が行われました。

AIとロボティクスの発展に寄与 fuRo古田所長がGMOとコラボレーション



6月18日、GMOインターネットグループはAIとロボット・ドローンの導入や活用支援を軸とした新事業「GMO AI&ロボティクス商事(GMO AIR)」を設立しました。今回、設立が発表されたGMO AIRは、「AIとロボットをすべての人へ。」をミッションに掲げ、AIおよびロボットの普及・拡大を図り、社会課題を解決することですべての人の笑顔と感動を創出していくための企業。

発表会には、GMO AI&ロボティクス商事の取締役会長であるグループ代表の熊谷正寿氏、代表取締役社長の内田朋宏氏、同社の顧問であり千葉工業大学未来ロボット技術研究センター所長の古田貴之氏が登壇しました。GMO AIRは「AIとロボットをすべての人へ。」をミッションに

掲げ、AIとロボットの普及・拡大を目指しています。同社は国内外のAI関連企業やロボットメーカー、産業用ロボットメーカーと顧客をつなぐ商社として、技術、ノウハウ、データ、資金の流れをつなぎます。特に「AI導入・活用支援」では、コンサルティング、製品販売、教育、スタートアップ支援に注力します。

発表会では、中国Unitreeのロボット「H1」「B2」、Boston Dynamicsの「Spot」、千葉工業大学の「CanguRo」などがデモンストレーションを行いました。古田所長は、「AIとロボティクスの発展は、私たちの生活をより豊かにし、社会課題の解決に大いに寄与します。GMO AIRの設立は、その一助となる重要な一歩です」と述べました。

近藤小雪助教の研究チーム、 クマムシの耐性機構解明に向けて大きな前進



生命科学科近藤小雪助教(研究当時:東京大学大学院理学系研究科特任研究員)、田中彬寛氏(研究当時:同大同研究科大学院)、國枝武和東京大学准教授は、高い耐性をもつヨコヅナクマムシを用いて、標的遺伝子を完全に改変した個体を“シングルステップ”で作製する手法を確立しました。

クマムシ類は、宇宙空間への曝露^{ばくろ}などさまざまな極限的なストレスに対して高い耐性をもつことで知られます。これまでに耐性に寄与すると考えられる遺伝子やタンパク質が多数見つかっていま

すが、クマムシにおける適切な遺伝子改変技術が確立されておらず、それらの生体内での機能や耐性への寄与を調べることができませんでした。

本研究チームは、クマムシのゲノムを改変する効率的な手法を開発し、遺伝子を破壊したノックアウト個体のほか、外来DNA配列をゲノムに組み込んだノックイン個体の作製にも成功しました。本研究成果は、クマムシの耐性機構の解明を促進するとともに、ワクチンや有用な生物材料などを保存する革新的な技術の開発に役立つことが期待されます。

令和7(2025)年度 千葉工業大学入学試験日程

総合型・学校推薦型・特別・編入学

試験種別		願書受付期間	試験日	合格発表日
総合型選抜	総合型(創造)選抜 (書類審査・課題演習・面接)	9/12(木)~9/27(金)(消印有効)	10/12(土) 13(日)	11/1(金)
	総合型(デジタルイノベーター発掘)選抜 (書類審査・課題演習・面接)	9/12(木)~10/4(金)(消印有効)	10/27(日)	
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(指定校制) 【一般高校・専門高校】(書類審査・小論文・面接)	11/1(金)~11/8(金)(消印有効)	11/17(日)	12/2(月)
	学校推薦型選抜(帰国生徒指定校制) (書類審査・小論文・面接)	10/23(水)~11/8(金)(消印有効)		
	学校推薦型選抜(公募制) (書類審査・読解力テスト・面接)	11/1(金)~11/8(金)(消印有効)	11/24(日)	12/2(月)
	学校推薦型選抜(専門高校) (書類審査・読解力テスト・面接)			
特別選抜	特別選抜(帰国生徒) (書類審査・小論文・面接)	10/21(月)~11/6(水)(消印有効)	11/23(土)	12/2(月)
	特別選抜(社会人) (書類審査・小論文・面接)			
	特別選抜(外国人留学生) (書類審査・面接・日本留学試験結果)	9/24(火)~10/3(木)(必着)	11/23(土)	12/2(月)
編入学選抜	編入学選抜 (書類審査・小論文・面接)3年次受入れ	9/24(火)~10/3(木)(必着)	11/23(土)	12/2(月)
	編入学選抜(指定校制・高等専門学校) (書類審査・面接)3年次受入れ			

デザイン科学科「橋本研究室」と 「千葉市立有吉小学校」との協働プロジェクト 不要になったものを「子どもたちの居場所づくり」に利活用



スクールフォーラムに人工芝とベンチを配置した様子



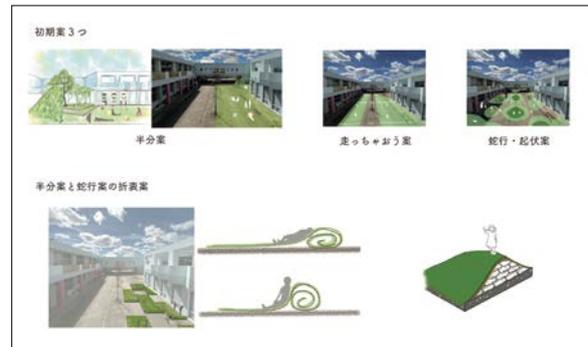
プロジェクトメンバーと笹本校長先生

2024年3月、有吉小学校の笹本校長より、マリスタジアムで使用しなくなった人工芝とサッカーゴールを活用して、校内に子どもたちの居場所をつくれなかととの相談がデザイン科学科・橋本都子研究室に寄せられました。研究室では「面白そう!」と申し出を受け、4年生と大学院生の計10人によるプロジェクトがスタートしました。

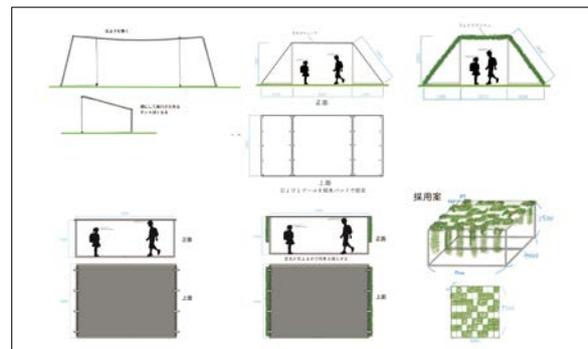
学生たちは「敷地の半分に人工芝を敷き詰めて自由に寝転んだりできるスペースにする案」や「人工芝を曲線で配置して子どもたちの危ないかけっこを抑制する案」「芝生の下に土のうを入れて起伏をもたせた遊びスペースにする案」など、配置や活用イメージを複数提案し、学校側と協議を重ねていきました。人工芝は貸与という形のため切断するといった加工はできない、土のうを入れて起伏をもたせることは費用面と子どもたちの安全面から考えて難しいなどの学校側の意見を受けて提案内容を修正していき、6月15日に完成を迎えました。

「最終的に、いくつかのエリアに分けて人工芝を配置し、子どもたちが好きなエリアで自由に座ったり、おしゃべりしたり、寝転んだりできるスペースにしました。さらに、敷地の中央にサッカーゴールを横向きに据えてフェイクグリーンを配することで、日陰の下でくつろげるスペースを設けました」(プロジェクトリーダーの若林大輔さん・4年生)。

有吉小学校の笹本校長より、「以前はただ子どもたちが通過するだけの場所でしたが、今そこは、子どもたちが^{ただ}行み、くつろぎ、交流する大切な場の一つとなっています。今回の環境整備が、将来、不登校児童生徒の増加を抑制する手立てとなることを期待しています。ご協力いただいた橋本先生と研究室の皆様にお礼を申し上げます」とのコメントが寄せられました。



人工芝生の活用案



サッカーゴールの活用案

活躍する 校友

理系営業マン一筋39年「社内変革へ力を注ぎます」

津久井 俊一 さん(62) | 昭和60年、金属工学科卒

生成AI(人工知能)の時代が到来した。カギを握るのは半導体。その専門商社・佐鳥電機(本社・東京)で津久井俊一さんは理系営業マン一筋にまい進してきた。「これから数年かけて社内変革に取り組みます」と一歩先を見つめる。

実家は東京の西郊、青梅市。都立高校から1浪ののち本学へ進んだ。下宿希望だったが、「一人にしたらなにをするか」と気をもむ父の勧めで大学より案内のあった千種寮に入り、ときに「夜逃げ組、さえるパンカラな寮風にめげず4年間を過ごした。中高とサッカー少年だったのに、まるで別世界の器械体操部に属し、体育会の役員として成田山詣り脚(体育会本部主催)の休憩所さがしも。

津田沼キャンパス～成田山新勝寺(成田市)の約40kmを夕方から翌朝まで夜通し歩く。春恒例のイベントだ。近年では他大学の学生も加わることがある。「今年もよろしく」と日本酒持参で建設関係の事務所やパチンコ店などを回った。「いい社会勉強でした。髪はふさふさ、ブルース・リー並みのマッチョなこころです。仲間には個性の強い人が多く、オープンな雰囲気楽しいキャンパスだった」と明るい。

大学に近い紳士服の店でアルバイトも。接客のほか、店員不在のときは見よう見まねの「採寸、までした。達者である。

さて本業の卒業研究は「ジュラルミンの耐性」をテーマにした。航空機の機体に使われる金属を相手に、どのくらい力を加えたら壊れるかをみていく。紳士服バイトとは異次元の硬い印象だが、いまの学科名で言えば「先端材料工学」。未来社会を動かす新しい材料技術を追っていたわけだ。柔らかな頭でないと、なかなかできない。

その実験に本格着手しようかという3年の終わりごろだった。「面接を受けないか」。指導教授に声をかけられた。いずれ会

社回りをする身につけ、試しに行ってみた。ペーパーテストだけでなく、社長面接まであり「即内定」をもらった。さすがにびっくりしたらしい。「当時、理系の学生の応募が少なかったようです。教授の紹介なので断れませんね」。いまの会社である。

住友電工、日本電気などを顧客に通信(ネットワーク)分野の仕事が長く、2009年には執行役員に昇進した。その10年後、ユーザーの求めに応じたデバイス(装置)を探すセクションに移った。「技術的な知識を頭に入れておかないと、取引先は本当のことをすぐに言ってくれませんか」と振り返る。文系出身者にとって、精密部品に関する営業トークをきちんと身につけるのはそう楽ではなさそうだ。

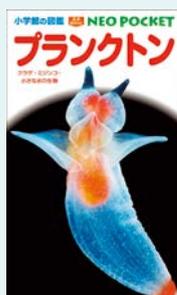
「産業のコメ」といわれる半導体は家電や車、スマホなど社会のすみずみで暮らしを支えている。それには素材供給企業、回路の設計企業、そして半導体製造装置をつくる企業が必要だが、「優れた半導体を探し、それをもとにより製品(商品)を市場へ送り出すメーカーへつなぐのが商社のミッション」と力説する。脱炭素社会、SDGs(持続可能な開発目標)へもつながら可能性を示唆する。

この6月に執行役員を降り、いまのポジションであるシニア・アドバイザーに就いた。現行事業を効率化あるいは新しい事業を開発し、社内組織の改革を通して生産性アップを目指すビジネス・アーキテクトである。「若干「ビックマウス」なので自戒の念を込めて『言うは易く行うは難し』をモットーに進めます」と控えめだ。

学生と面接してきた津久井さんは「会社訪問するなら、会社情報を集めるのもよいが、性格を丸出しにして自分を売り込め」とアドバイスする。社内結婚の奥さんとの間に1男1女(ともに社会人)。



出版 案内



小学館の図鑑 NEO POCKET
プラントン～クラゲ・ミジンコ・小さな水の生物

本書は、身近な水辺から極地まで、さまざまな環境に生息するプラントンを約500種紹介する決定版ポケット図鑑です。美しい写真で、小さな生物たちの姿を鮮やかに表現し、子どもから大人まで楽しめる一冊となっています。「プラントンがいなければ地球は滅亡する?!」や「光るプラントン」など、知られざる事実や不思議な生態を解説。さらに「プラントンを集めに行こう!」といった自由研究に最適なコーナーも収録しています。本書では、生命科学科の村上和仁教授が主に藍藻(シアノバクテリア)について監修しています。

- 書籍: 小学館の図鑑 NEO POCKET「プラントン～クラゲ・ミジンコ・小さな水の生物」
- 定価: 1,100円(税込) ●判型: 新書版 ●頁数: 176頁
- 発売日: 2024/6/25 ●発行元: 小学館

大橋さんが学生奨励賞を受賞



情報通信システム工学専攻 大橋 慎さん
【長 敬三 研究室】

情報通信システム工学専攻修士2年の大橋慎さんが、6月13日に電子情報通信学会アンテナ・伝播研究専門委員会より学生奨励賞を受賞し、その授与式が機械振興会館で開催されました。大橋さんの研究テーマは「300 GHz帯における屋内通信用金属平面反射板の大きさと反射電力の関係」。Sub-THz波の広い帯域幅を活用した高速・大容量通信に向け、屋内環境での電波の反射特性を測定し、有効な反射波を得るための反射板の設計条件をシミュレーションおよび測定により明らかにしました。大橋さんは「賞をいただけて光栄です。研究を指導して下さった長先生や測定に協力してくれた研究室のメンバーに感謝し、今後も研究に励んでいきます」と喜びを語りました。

DICOMO2024で優秀プレゼンテーション賞



情報ネットワーク学科 猪狩 紫雲さん
【駒野 雄一 研究室】

情報ネットワーク学科4年の猪狩紫雲さんが、6月26日から28日に岩手県花巻市で開催されたDICOMO2024において、優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。研究テーマは「巡回セールスマン問題の物理的ゼロ知識証明プロトコル」で、情報セキュリティ分野で注目されるゼロ知識証明技術の一つとして、巡回セールスマン問題の解の知識を示す技術を世界で初めて提案しました。この技術は、トランプのようなカードに情報を符号化し、カードを操作して証明を行います。猪狩さんは「指導教員の駒野先生、共同研究者の東北大学・水木先生、発表練習を手伝ってくれた研究室の皆様へ感謝します。受賞を励みに、今後も研究に精力的に取り組みます」と述べました。

日本生化学会関東支部例会で優秀発表賞を受賞



生命科学専攻 長谷川 拓矢さん
【坂本 泰一 研究室】

生命科学専攻博士課程2年の長谷川拓矢さんが、6月15日に順天堂大学本郷・御茶ノ水キャンパスで開催された日本生化学会関東支部例会において、優秀発表賞（優秀ポスター発表賞）を受賞しました。研究テーマは「TGF-βシグナル経路で機能する転写因子SmadとDNAの相互作用解析」。細胞の増殖や分化、さらにはがんの進行に関与するTGF-βシグナル経路において、転写因子SmadとDNAの相互作用を解析し、その分子メカニズムを明らかにすることを目指しています。長谷川さんは、坂本教授や研究室のメンバー、共同研究者である山梨大学の宮澤恵二教授、伊藤友香先生に感謝の意を表し、「今後も多くの方々との協力を得ながら、研究に精進していきたい」と述べました。

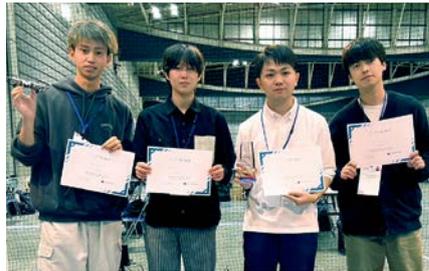
赤城さんが優秀演題賞を受賞



生命科学専攻 赤城 紫音さん
【南澤 鷹優寛 研究室】

先進工学研究科生命科学専攻修士課程2年の赤城紫音さんが、6月15日に順天堂大学で開催された日本生化学会関東支部例会で優秀演題賞を受賞しました。赤城さんの研究テーマは「アルツハイマー病モデルマウスのL-アルギニン-ポリアミンの代謝経路を標的とした治療法の開発」です。アルツハイマー病(AD)を発症するモデルマウスを用い、L-アルギニンとリモノイドを投与する治療戦略を発表しました。ポリアミンの産生挙動をコントロールし、ADの病態を抑制する機構を明らかにしています。現在、8月の国際会議での発表に向けて研究を進めています。赤城さんは「南澤先生、坂本先生、研究室の皆様へ感謝し、受賞を励みに一層研究に精進します」と述べました。

MathWorks Minidrone Competition - ICRA 2024で航空工学研究会が2nd Placeを受賞



写真左から
未来ロボティクス学科 吉田 尊さん
機械工学科 田中 太喜さん
機械電子創成工学専攻 小川 達也さん
機械工学科 唄代 優人さん
【航空工学研究会】

機械電子創成工学専攻2年の小川達也さん、未来ロボティクス学科2年の吉田尊さん、機械工学科2年の唄代優人さん、田中太喜さんが、5月16日にバシフィコ横浜で開催されたMathWorks Minidrone Competition - ICRA 2024において、2nd Placeを受賞しました。この大会は、ドローンによるライトレースをテーマに、地面のラインをドローンが追跡し、円形マーカに着陸するプログラムを開発・実装する競技です。追跡の正確さや着陸までのタイムを競い、最初にシミュレーションラウンドで競い、上位チームが実装ラウンドに進出します。

今回の大会では、開発期間が短かったため、去年のモデルから大きな修正をせずに、正確にゴールに到達できるようにパラメータを調整。大会当日の練習ラウンドでも確実にゴールに到達できるようにしました。本番では練習の成果を十分に発揮、実装ラウンドに進出した5チームの内、唯一、7回のトライ全てを完走、安定した動作を見せました。1位のチームとは3秒差という僅差で敗れましたが、大会運営者からも安定した動作だと評価されました。

小川さんは「これまで多くの苦労がありましたが、この経験を活かして良いエンジニアになれるように今後も頑張っていきたい」と述べました。このCompetition は、ICRA 2024のイベントの一つとして開催され、世界中からエントリーがありました。航空工学研究会メンバーは2019年、2021年、2023年にも出場しており、2019年には優勝、2021年には3位、2023年には2位を獲得しています。

学生寮で 防災訓練、運動会を開催



330名の学生が参加



指示に沿って避難場所の野球場へ向かう



白熱した騎馬戦



最終種目のリレー

学生寮防火防災訓練

6月15日(土)、年に一度実施される学生寮の防火防災訓練が行われました。今年は男子255名、女子75名、総計330名の学生が参加しました。訓練では大地震により男子寮4階から火災が発生したことを想定し、避難訓練が実施されました。

避難先である寮南側の野球場まで、火災発生から避難完了までの時間は僅か15分で、速やかな避難が行われました。参加者は訓緊急時の対応を再確認するとともに、実際の災害時に「落ち着いて行動すること」「周囲の人々とのコミュニケーションの大切さ」「その場の状況に応じた判断」「災害時の備え」などの重要性を改めて認識しました。

学生寮運動会

同日10時から17時まで男子265名、女子74名が参加し、学生寮運動会が開催されました。日々の運動不足を解消し、寮生活での人間関係を深めようと、イベントの企画・運営には、梶田優さん(建築4)、平あかりさん(デザイン2)、杉村航太さん(建築4)らが責任者として携わりました。

運動会はフロア対抗で行われ、参加者はさまざまな競技に熱中しました。玉入れ、二人三脚、障害物競走、騎馬戦、リレーなどが行われ、特に騎馬戦は白熱し、観客を大いに沸かせました。最終種目のリレーでは、OBが飛び入り参加し、会場は一層盛り上がりました。同イベントに参加することで寮生らの親睦を深める良い機会となり、運動会は大成功のうちに幕を閉じました。

柔道部が12年ぶりの優勝 全日本理工科学生柔道優勝大会



【平川選手のコメント】

「12年ぶりの優勝は選手個々の努力と今井監督の完璧な起用の結果です。坂本幸弘教授等、関係者の皆様に恩返しできてホッとしています。特に檜山選手の逆転一本勝ちは稽古の賜物で、自分のことのようにうれしいです。試合前に金子先生、須長先生から鼓舞され、一段と士気が上がりました。今後は、10月の東京理科大学柔道優勝大会連覇、来年度の全日本大学生柔道優勝大会出場を目指します。」

令和6年度(第65回)全日本理工科学生柔道優勝大会が6月23日(日)、講道館(東京都文京区)で開催され、連盟加盟の35大学が参加しました。本学体育会柔道部(平川陽大主将:先端材料工学科3年、佐々木練コーチ:電気電子工学専攻2年)は、男子団体試合で優勝しました。女子個人では本山小恭選手(金融・経営リスク工学科3年)が優勝し、男子無段個人では檜山和幸選手(機械工学科1年)が優勝しました。有段軽量では木下桜透選手(高度応用情報工学科1年)が3位、有段重量では片嶋昇大選手(経営デザイン工学科1年)が3位に入賞しました。

男子団体試合の7選手は、石井隆太郎(生命科学専攻1年)、平川陽大(先端材料工学科3年)、木内乾舟(電気電子工学科3年)、佐野翔太(知能メディア工学科3年)、深瀬皓也(プロジェクトマネジメント学科2年)、高橋陸翔(応用化学科1年)、佐野健太(知能メディア工学科1年)です。

決勝戦では金沢工業大学と対戦し、先鋒戦の佐野翔太選手は引き分け、次鋒戦の平川選手が抑え込み一本勝ちしました。中堅戦で木内選手が抑え込み一本負けしましたが、副将戦の佐野健太選手が背負い投げで一本勝ちしました。大将戦の石井選手は引き分けとなり、2対1で12年ぶりの優勝を果たしました。

就職・進路に役立つ情報をお届けします

就職・進路支援だより



就職・進路支援部からのメールをチェックしよう

4年生・修士2年生向け支援

前期授業も終わり、研究等に本格的に取り組む方も多いかと思えます。それぞれの進路に向けた準備は進んでいますか？現在就職活動中、または活動しようと考えている方は、就職・進路支援部のスタッフとの面談をおすすめします。引き続き、各学科担当スタッフからも個別連絡をとり、状況に合わせてアドバイスをしていく予定です。大学への求人はまだ多く寄せられていますので、ご相談ください。また、進路全般に関してもお気軽にご相談ください。

3年生・修士1年生の皆さん

後期が始まると、授業や研究も忙しくなり、就職活動に向けた学内イベントも増え、あっという間に年末がやってきます。重要な進路決定の準備時期となりますので、この夏期間間を利用し、保護者等と大学院進学または就職（就職先）についてよく話し合ってください。インターンシップ等に参加している場合は、振り返りを行い、今後の進路選択に活かしてください。就職活動についてわからないことは、まず「就職活動の手引き2026」を活用しましょう。後期のイベントや講座等は、決定次第順次お知らせいたします。

※夏期間間の窓口開室状況は、大学ウェブサイトやメール配信等でご確認ください。

全学生向け支援／

「学生アドバイザー」制度がスタート

就職活動を終えた学部4年生または修士2年生にインターンシップや就職活動、学生生活等について相談出来る「学生アドバイザー」制度が6月からスタートしました。これからインターンシップや就職活動に臨む方はもちろん、低学年の皆さんも歓迎します。就職活動を終えたばかりの先輩の体験談を直接聞ける貴重な場として、活用してください。



実施日： 平日13時から16時（大学の夏期・冬期・一斉休暇、休講時は除く）

場所： 津田沼キャンパス1号館2階 就職・進路支援部内

参加方法： 予約優先ですが、予約なしの参加でも調整可能。お気軽に窓口にお越しください。予約はCITポータル→就職システム→個人面談

PPA



去る6月29日、PPA評議員会および総会が開催されました。私は昨年度からPPA評議員（援助活動担当）を任されており、PPA評議員会・総会に出席しました。

PPA評議員会・総会において、保護者の皆様から多くの質問や意見がありました。援助活動担当に関わることとしては、少し具体的に書くとして「援助金の使われ方が偏っているのではないかな？」「援助金の金額はどのように決めているのかな？」「昨年度は一部余剰金があったようだが、もう少し別の使い方もあるのではないかな？」といったものがありました（誤解が無いように書いておきますと、これらの質問にもきちんと回答がなされています）。私も大学生を子にもつ立場にありますので、援助金を子供たちに公平・効果的に使ってもらいたいという保護者の願いに強く共感しました。

私がPPA評議員を担当して1年ちょっと。まだPPA評議員について理解できていないことも多いのですが、振り返れば少しづつ一歩としていたように思います。上記のような保護者からのご意見があることを意識して行動しなければいけない、と反省をする日となりました。

教育センター（先進工）数学教室 東條 晃次

四季雑感



パリ2024オリンピック・パラリンピックには、千葉にゆかりのある選手は56名（オリンピック36名、パラリンピック20名）参加されるそうです。選手の方々が世界で活躍する姿を見るたびに、とても温かい気持ちになります。子どもの頃に見ていた選手は自分より年上でしたが、今では自分より若い選手が多く、時の流れを感じます（子どもの頃のように「僕もオリンピックに出場するぞ！」と思わないのが少し寂しい）。単純に見ていて面白いだけでなく、自分も頑張ろうという気持ちになり、スポーツの魅力を再認識しました。

前回の東京2020大会は新型コロナウイルスの影響で1年延期され、2021年に開催されました。そのため、パリ2024大会は3年ぶりの開催になるそうです。もう3年も経ったのかと驚きます。ちょうど、自分の生活習慣改善プロジェクトも開始から3年が経過し、現在も進行中です。今年の健康診断の結果がどうなっているか楽しみです。3年間の努力が実を結んでいることを期待しています。

人工知能・ソフトウェア技術研究センター 重藤 優太郎

編集だより



いつまで続くかわからない、猛暑にピタリとはまった「マツコの知らない世界」でのアイス特集。日本唯一のアイス評論家「アイスマン福留さん」による最新商品から、絶対に消えて欲しくない懐かしいアイス、そして、地方に残るレジェンドアイスまで、未来に残りたいアイスに家族みんなで釘付けになった。

特に印象に残った秋田県のご当地アイス「ババヘラ」。名前の由来が、露店でおばあちゃん（ばば）がヘラでアイスを盛るから。なんとなく、未だに愛され続けていることに納得（笑）。

また、70年以上地元で愛され続ける三重県桑名市マルマンさんの「アイス饅頭」。ぜんざいの様に煮たあずきをミルクでコーティングしたサッパリアイスが出来上がるまでの工程は、実に丁寧で、「ぜひ食べてみたい！」と鼻息が荒くなってしまった。このアイス饅頭が、9月をもって販売終了との知らせに、「啞然」。硬さと甘さの絶妙なバランスで、夏の風物詩として愛されたあずき饅頭。その最後の味わいをしっかりと記憶に刻みたいという思いが募る。

しかし、三重県は遠すぎるなあ～。

入試広報部 大橋 慶子